



小和田地区まちぢから ニュース

発行：小和田地区まちぢから協議会
問合せ：小和田地区コミュニティセンター
電話：0467-52-9016

令和7年度 小和田地区まちぢから協議会各部会の紹介

小和田地区まちぢから協議会が発足して10年を迎えました。発足からいくつかの部会が立ち上がり、活動後、役割を終えていった部会もあります。

今号では、現在も活発に活動している部会を紹介します。なお、小和田地区での感震ブレーカーの設置率が最低とのことで、特別に紙面を割きました。

広報部会

■部会長：風岡 学（かざおかまなぶ）

令和7年度から前任の香山氏より引き継いで、新たな活動を始めました。今まで苦労して作られてきた「まちぢから協議会」ホームページを、段階的にブログ方式の「こわだまち協ブログ」に移行しています。ホームページは管理・運営に負担が大きいのですが、当面は更新しています。

刊行物も、2年続けて特集号を発行されていましたが、今年はまち協設立10年目の節目であることを受け、新聞形式ではなく、保存版となりうる小雑誌形式での記念号を発行予定です。来年以降は特集号を廃止し、ネットワークを活用した、デジタルでの情報発信を積極的に進めていく予定です。

部会員は各自治会6名+団体（社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成推進協議会）3名で構成。



こわだまち協ブログ



交通安全部会

■部会長：川原葉月（かわはらはづき）

今年度の交通安全部会員は10名です。私が部会長になって3年目に入りました。

活動内容は、

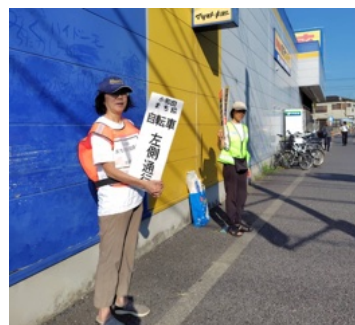
- ◆ 自転車の車道左側通行の啓発活動
- ◆ 時速30km規制道路でのゾーン30啓発活動
- ◆ 「草あつめ」と題した道路の草取り
- ◆ 小学校の通学路点検
- ◆ 小学校の歩行訓練教室、自転車教室への参加

部会活動を通して地域の人たちが少しでも安心安全に暮らせる地域づくりになればと思っています。

部会員の方たちと寄り添い知恵を出し合い、やれることを楽しく、無理のない活動を継続していきたいです。



ゾーン30啓発活動



草あつめ



通学路点検



車道左側通行啓発活動

防災部会

■部会長：豊田幸子（とよださちこ）

防災部会は令和2年9月に発足し、今年で丸5年活動が続けてきました。当初は「防災関連情報の共有」を活動方針としていましたが、令和4年度からは小和田地区自治会連合会主催で行っている、各種防災訓練の企画・立案等の活動を始め、「防災関連の情報発信」を活動方針に加えました。

現在、部会員は7名で構成、各自治会から最低1名の参加があり、検討された内容は各自治会にフィードバックされています。

コロナ禍でも「安否確認訓練」は従来通り実施。コロナ禍以降に再開した、防災訓練に関しては以前と異なる方式で防災部会において企画・立案。新たな訓練として「避難所開設訓練」に引き続き、「広域避難場所避難訓練」を提案して、小和田地区自治会連合会主催の防災訓練をサポートしています。

茅ヶ崎市内で小和田地区が「感震ブレーカー」の設置率最下位であることを受け、昨年度より、設置率の向上を目標の一つに掲げています。今回は特別に「感震ブレーカー」特集とさせて頂きました。

感震ブレーカーの普及啓発（政府方針）

火災の原因の過半数は電気

東日本大震災における本震による火災のうち、原因が特定されたものが110件。そのうち過半数（65%）が電気関係の出火でした。

地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する通電火災のことです。

電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的

「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。

感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

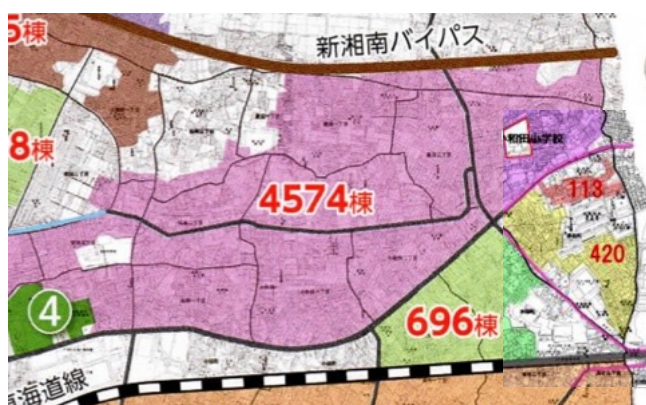
「感震ブレーカー」を復旧させる際は、ガス漏れがないこと、**すべての電気機器が安全な状態**であることを、必ず確認ください。高い場所に設置の場合、転倒に注意し、困難な場合は近くの方に頼みましょう。

茅ヶ崎市のクラスターは県内最大規模

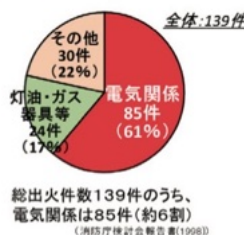
大震災が起きて、火災が発生すると密集住宅地は大規模火災になる恐れがあります。クラスターとは、その地域で火災が発生し放置すると、延焼によりその地域全体が火災に巻き込まれる地域のことです。

茅ヶ崎市は県内でも最大規模のクラスターが存在しています。小和田地区は500棟以上のクラスターが2箇所、それ以外のエリアも小規模クラスターとなっており、とても危険な地域です。（下図参照）

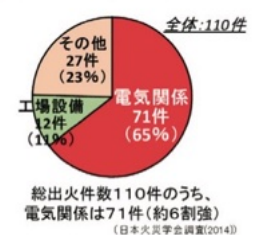
震災時は同時多発的に火災が発生し、消火活動が間に合わないケースが多いと予測されます。“火災を起こさない”自己防衛が必須です。



《阪神・淡路大震災》

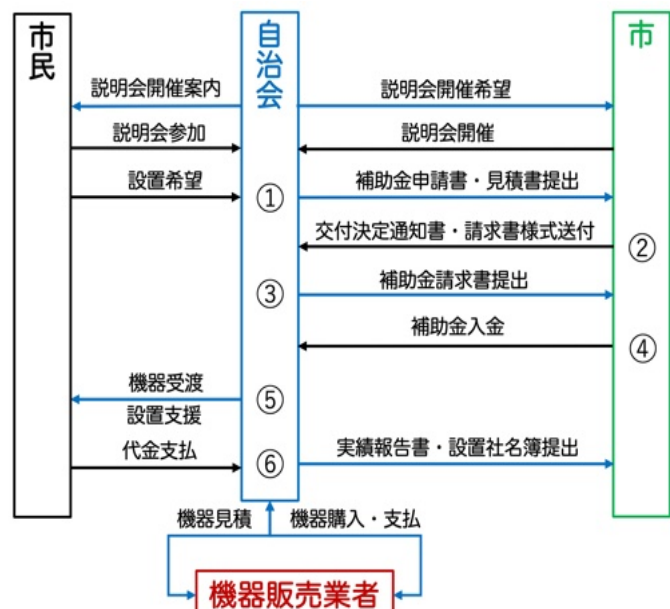


《東日本大震災》



補助金と申請方法

感震ブレーカー普及促進のため、以下の補助金を交付。
感震ブレーカーの税込本体価格の2/3（100円未満切り捨て。上限金額3,000円）。下図は申請方法。



茅ヶ崎市の感震ブレーカー地域ごと設置割合

地区	申請数		累計設置率%	
	R6年度	R7年度現在	R6年度	R7年度現在
茅ヶ崎	22	0	15.1	14.9
茅ヶ崎南	127	70	29.8	30.6
海岸	0	0	54.2	53.7
南湖	7	0	8.2	8.1
湘南	0	0	7.5	7.4
鶴嶺東	26	5	13.9	13.8
鶴嶺西	24	2	7.3	7.3
松林	39	16	12.9	12.9
小和田	115	186	4.7	7.1
松浪	19	9	14.2	14.2
浜須賀	75	1	31.7	31.5
湘北	37	23	12.6	12.8
小出	36	4	6.9	6.9
	527	316	17.4	17.6

感震ブレーカーの設置率を市内の各地区ごとと、小和田地区の自治会ごとに集計しました。左の表では令和7年度の現在までの集計なので、最下位は脱出しています。赤松町自治会のマンションで、全戸設置した結果です。

下表は令和6年までの小和田地区各自治会の設置数です。

協議会	自治会	H27	R2	R3	R4	R5	R6	合計
小和田地区	新宿	3		6	6	3	17	35
	本宿	4						4
	赤松町						20	20
	赤松	2	21	65	3	4	17	112
	菱沼小和田	3		27	30	12	46	118
	プランヴェール				49		15	64
小計		12	21	98	88	19	115	353

感震ブレーカーの選定の手引

機器名	① ヤモリ	② ヤモリ・デ・セット	⑨ 瞬断
写真			
特徴 (地震発生と同時に作動タイプ)	バネの力でブレーカーを自動的に遮断。分電盤本体に設置。蓋付きの分電盤では蓋が閉まらなくなる。基本的に漏電ブレーカーに設置。地震発生と同時に作動する。	バネの力でブレーカーを自動的に遮断。分電盤本体に設置。基本的に漏電ブレーカーに設置。蓋付きの分電盤に対応、設置が難しい。地震発生と同時に作動する。	揺れを検知すると疑似漏電により漏電ブレーカーを作動させ、電気を遮断する。地震発生と同時に作動する。コンセント（アース又は3端子付）に取り付ける。漏電ブレーカーが必須。
参考価格 【自己負担額】	3,080円 【1,080円】	5,830円 【2,830円】	6,380円 【3,380円】
昨年度設置実績	62%	7.2%	21.8%

地震発生と同時に作動するタイプでは、手元に懐中電灯等の非常用の明かりを準備することが必須です。

機器名	⑤ki感震センサー (アース線タイプ)	⑥ki感震センサー (3端子タイプ)	⑦ 震太郎 (アース線・3端子タイプ)	⑩ZEN断+ (アース線・3端子タイプ)
写真				
特徴 (地震発生3分後作動タイプ)	遅延遮断機能を有し、揺れを検知した後、3分後にブレーカーを遮断。コンセント（アース又は3端子付）へ設置することで、揺れを検知すると疑似漏電により漏電ブレーカーを作動させ、電気を遮断する。漏電ブレーカーが必須。 ⑤と⑥は壁にネジで取り付ける必要あり。 ⑦は3端子・アース線どちらも対応。 ⑩は3端子・アース線どちらも対応。遮断間隔を0～3分で調整可能。			
参考価格 【自己負担額】	7,040円 【4,040円】	7,480円 【4,480円】	10,780円 【7,780円】	6,380円 【3,380円】
昨年度設置実績	4.2%	0.4%	3.6%	0（新製品）

⑦ 震太郎は新築マンションの方々が多く購入、壁に穴を開けずに済みます。

⑩ 新製品なので、購入数はゼロですが、価格と取り付けやすさでは群を抜いています。

【備考】機器名に付された番号は、市が付けた番号で順不同で掲載しています。

子ども部会

■部会長：高木眞由美（たかぎまゆみ）

小和田地区まちぢから協議会こども部会は、令和7年4月新たに立ち上がった部会です。令和5年より小和田地区民児協において「子どもの居場所を考える」をテーマに様々な活動をしてきた中で、「フリースペース」の開催は子ども達から保護者の皆さんまで特に要望が多く、地域全体で考え継続していくべき活動としてこども部会が立ち上がりました。また、フリースペースを開催することで小和田地区の子ども達の課題を考える機会となるよう部会活動をしていきたいと思ひます。

今年のフリースペースは夏休み期間中に全9日間開催しました。（YU-ZUルーム：5日間、小和田地区コミセン：4日間）フリースペースは基本的に場所の提供で、「何をしてもよい、何もしなくてもよい」を基本として地域の大人達の見守りの中、安心して過ごせる居場所です。その中で地域とつながりを持てるようなイベントを開催しました。（勿論、参加は自由です）

- ◆ ステンシル教室：赤羽根中学校美術部の方による創作活動。優しく丁寧に教えてました。
- ◆ 英語でスタンプラリー：中学生にお手伝いしてもらいながら英語に楽しくふれあいました。
- ◆ プラ板作成：習った英語で名前と絵を描き素敵な作品ができました。
- ◆ パンづくり：自分の好きなものを型作り 美味しく焼きました。
- ◆ 絵手紙教室：地域で活動されてるサークルの皆さんと団扇に描きました。大人気の活動に！
- ◆ 紙飛行機作り：コミセンの大広間に紙飛行機が飛び交いました。
- ◆ 夏の身近な生き物について：茅ヶ崎市都市部景観みどり課によるクイズ形式で、茅ヶ崎に生息するいきものについて勉強しました。沢山の蝉の抜け殻、生きているバッタやカブトムシやクワガタに夢中でふれあいました。
- ◆ 盆踊り練習会：地域の方と一緒に楽しく練習、本番の盆踊りはもっと楽しかったかな？
- ◆ ボッチャ：投げ方の工夫や作戦を練り審判も子どもたち自身でおこないました。
- ◆ キッズヨガ：体も心ものびのびと。整ったかな？
- ◆ 水鉄砲大会：子どもも大人も大はしゃぎ！びしょ濡れになりながら笑顔一杯でした。

地域にはけん玉名人、折紙名人、多様な名人がいらっしゃり協力いただきました。

中学生・高校生・大学生達がユースボランティアとして参加してくれました。いずれも楽しくボランティア活動ができたとの事、また「自身が子どもの時には親たち（大人達）は、色々と考えてくれていたんだな」と新たな気づきがあったとうれしい意見もあり、昨年から2度目の参加やその後の地域のお祭りに参加とつながりができました。

「小和田地区は公園で子ども達がのびのび遊んでいますか？」「大人も子どもも気軽に出入りできる場所がありますか？」このような事を心にとどめながら 子ども達の“やりたいな！”の気持ちに応える活動していきたいと思ひます。

